

[様式 9 - 1]

福祉サービス等第三者評価結果

総合評価

受診施設名	上川口保育園	施設種別	保育所
評価機関名	特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク「一期一会」		

平成 27 年 3 月 23 日

総 評	<p>花園福祉会が運営する上川口保育園は、自然豊かな福知山市の郊外に位置し、広い園庭の奥には緑の山並みが広がっています。法人の沿革としては、地元の龍雲寺に開かれた託児所が、昭和 45 年に保育園となり、その後法人化した歴史があります。その保育理念には、「子どもの人権や主体性の尊重」が謳われ、保育方針には、「感謝の心を育てること」が根底にあり大切にされています。</p> <p>平成 23 年、公立だった上川口保育園が公設民営化されて、龍雲寺保育園を閉園し、二つの園が合併した形で花園福祉会が運営することになりました。公立園と私立園の特徴の違いや、広域に渡る複数の地域との関係等、この 4 年間、公立から民間への移行には様々な努力が必要であったと伺いました。</p> <p>住職である園長は地域の役職にも就いておられ、地域との連携を大切にされた保育実践が進められています。園長・保育主任の「職場は明るく楽しくないといけない」という考えとリーダーシップのもと、職員間の交流が図られ、職員集団としてチームワークの良さが窺えました。また、そのことが保育実践にも繋がり、職員間の情報共有も良好に行われています。</p> <p>法人が運営する花園保育園は平成 19 年に第三者評価を受診されていますが、上川口保育園としては今回が初めての受診となりました。個々の項目に沿って、実践している保育内容を当てはめて検討し、職員全員で丁寧に自己評価に取り組まれた課程は高く評価でき、自己評価の過程からすでに多くの気づきを得ておられます。</p> <p>「子どもの可能性を信じる」姿勢、「子どもを見守る」視点が保育実践の基本として貫かれ、保育士の言動は明るく、かつ落ち着きがあり、温かい家庭的な雰囲気の中で子ども達は安心して伸びやかに遊びや生活を展開していました。</p> <p>地域性として三世帯同居家庭が多く、日頃から祖父母を含めた保護者との情報交換に心掛けて、その意向を活かした保育実践が行われています。</p> <p>特に食育には力を入れられ、「食べ物への感謝」を心掛け、園で収穫した野菜や旬の食材を使った昼食やおやつが提供され、レシピ公開や試食は保護者の支援にも繋がっています。</p> <p>今後も職員全体で保育の質の向上に取り組まれ、法人として福知山市で地域に根付いた保育実践を進めていかれることを期待しております。</p>
-----	--

<p>特に良かった点(※)</p>	<p>I-1【保育の理念・基本方針・目標】 「子どもの人権や主体性を尊重して児童の健全な発達を平等に保障する」（一部を抜粋）など、法人設立時からの理念を基に、「常に明るい豊かな心」等の保育目標が明文化され、その目標をさらに明確にした保育方針が立てられている。これらの理念、方針、目標は、毎年職員全員で確認され、職員の目指す方向として浸透している。また、入園のしおり、保育概要に記載し、保育室に掲示して利用者等に説明している。地域住民や関係機関にも、入園・卒園式において年間行事予定等を配布して理解を促している。</p> <p>III-1【利用者本位の福祉サービス】 「プライバシー保護に関する規程」を策定して、職員に対しては誓約書を取り、人権尊重や虐待防止について研修を実施している。利用者の意見・要望を汲み上げ保育実践に反映させるために「相談解決実施要領」を作成して苦情解決の体制を整備している。「意見、要望の解決のための規程」について玄関に掲示して、利用者の意見等には迅速に対応している。</p> <p>IV-1-(3)【保育内容】 保育室に自由に使える折り紙や画用紙、文房具などを用意して、子ども達の興味に合わせて自分で取り出して使えるようにしている。また、絵画、粘土遊びなど自由に表現できる活動が大切にされ、個性を尊重した創作活動が行われている。 普段から異年齢の子どもとの関わりを意識して思いやりを育てる保育を行っている。運動会では「おゆうぎ」や「パズル合わせ競争」等、異年齢の取り組みを行っている。</p>
<p>特に改善が望まれる点(※)</p>	<p>II-2-(3)【職員の質の向上に向けた体制の確立】 職員育成に積極的に取り組まれ、職員一人ひとりについて教育研修計画が策定されているが、計画に沿った研修の実施や具体的な取り組みに課題があると自覚されている。研修履歴等を含む個別の研修計画の策定が望まれる。</p> <p>III-2-(2)【サービス実施の記録】 記録管理については園規程において記載されているが、個人情報保護と情報開示の観点を含む「文書管理規程」が必要である。 毎月の職員会議、行事に関する会議、クラス毎のケース会議等で必要事項の検討が行われているが、必要な情報が的確に届き共有できるように、ケース会議等の定期的な開催が望まれる。</p> <p>IV-3①【調理場、水周りなどの衛生管理】 ②【食中毒発生時における対応】 広い調理場では掃除・消毒を徹底し衛生管理に努めているが、必要な情報収集はしているものの衛生管理マニュアルは未整備である。食中毒発生時における対応マニュアルは整備されているが、定期的な見直しができなかった。マニュアルが実践的な内容になり、継続的な研修が実施できるように、フロー図の作成や定期的な見直しが必要である。</p>

※それぞれ内容を3点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シート」の「自由記述欄」に記載しています。

京都府福祉サービス等第三者評価事業

[様式9-2]

【保育所版】

評価結果対比シート

受診施設名	上川口保育園
施設種別	保育所
評価機関名	特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク「一期一会」
訪問調査日	2015年2月17日

保育所評価基準 対比シート

I 福祉サービスの基本方針と組織

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
I-1 保育の理念・基本方針・目標	I-1-1 保育の理念、基本方針・目標が確立されている。	① 保育の理念が明文化されている。	A	A
		② 保育の理念に基づく・基本方針・保育目標が明文化されている。	A	A
	I-1-2 保育の理念、基本方針・目標が周知されている。	① 保育理念・保育方針・保育目標が職員に周知されている。	A	A
		② 保育理念・保育方針・保育目標が利用者等に周知されている。	A	A
I-2 計画の策定	I-2-1 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	① 中・長期計画が策定されている。（非該当）	非該当	非該当
	I-2-2 保育の計画が適切に策定されている。	① 保育課程が保育理念・保育方針・保育目標に基づき、さらに地域の実態や保護者の意向等を考慮して編成されている	B	A
		② 保育課程と年間指導計画、短期指導計画との整合性が図られている。	A	A
		③ 指導計画の評価を定期的に行い、その結果に基づき改定されている。	B	A
		④ 保育課程の編成や指導計画の作成が組織的に行われている。	B	A
		⑤ 保育課程・指導計画が職員や利用者等に周知されている。	B	A
I-3 管理者の責任とリーダーシップ	I-3-1 管理者の責任が明確にされている。	① 管理者自らの役割と責任を職員に対して表明されている。	B	B
		② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている。	B	B
	I-3-2 管理者のリーダーシップが発揮されている。	① 質の向上に意欲を持ちその取り組みに指導力を発揮している。	B	A
		② 経営や業務の効率化と改善に向けた取り組みに指導力を発揮している。	B	A
[自由記述欄]				
I-1-1-1 ①	「子どもの人権や主体性を尊重して児童の健全な発達を平等に保障する」（一部を抜粋）など、法人設立時からの理念が、入園のしおり、保育園概要に記載され、保育所内に掲示されている。			
I-1-1-1 ②	「感謝」を基本とした「常に明るい豊かな心」等の保育目標が明文化され、その目標をさらに明確にした保育方針が、入園のしおり、保育園概要に記載され、保育室に掲示されている。			
I-1-2-1 ①	理念、方針、目標は保育室に掲示され、年度末、および、年度初めの職員会議において職員全員で確認して、職員の目指す方向として意識統一されている。			
I-1-2-2 ②	理念等は入園説明会、入園・新級式において、入園のしおりを使って利用者等に説明している。地域住民や関係機関にも、入園・卒園式において年間行事予定等を配布して理解を促している。			
I-2-2-1	非該当			
I-2-2-2 ①	保育過程は適切に作成されている。園長は地域で様々な役職に就き、自治会の会議等に積極的に参加し、地域の実態や保護者の意向の把握に努めている。			
I-2-2-2 ②	保育課程を基に、年間・月間指導計画、週・日案と各指導計画は整合性があり、園児の個性を考慮した内容になっている。昨年度から「体育遊び」に力を入れた実践計画を立て、運動会での縦割り活動「おはなばたけ活動」等の実践につながっている。			
I-2-2-2 ③	指導計画の評価・改定は、組の担当保育士を中心に、前月の反省や評価をもとに行われている。			
I-2-2-2 ④	保育過程の作成は、ある程度経験のある保育士が中心となり合議して行われている。			
I-2-2-2 ⑤	保育課程・指導計画は保育室に掲示し、保育のしおりにも記載して周知を促している。特に行事計画については、園・組だより等の広報誌に記載してわかりやすい工夫をしている。			
I-3-1-1 ①	管理規程に管理者の職責を明記している。普段から役割と責任について表明しているが、職員や保護者からの信頼について把握、評価する取り組みは行っていない。			
I-3-1-1 ②	法令について、管理者は研修や勉強会に参加し職員に周知しているが、幅広い関連法令について情報収集はされているがリスト化されていない。			
I-3-2-1 ①	管理者は保育サービスの質の向上に熱意を持ち、職員に対して3世代同居世帯が多い地域での家族との接し方等、常に具体的な指導をしている。			
I-3-2-2 ②	業務の効率化や働きやすい環境整備に配慮されている。特に行事における職員負担を軽減するために、数年間の実践について行事ごとにまとめた「行事記録」を作成している。			

II 組織の運営管理

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
II-1 経営状況の把握	II-1-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	① 事業経営をとりまく環境が的確に把握されている。	B	B
II-2 人材の確保・養成	II-2-(1) 人事管理の体制が整備されている。	① 必要な人材に関する具体的なプランが確立している。	B	B
		II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。	① 職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。	B
	② 職員の福利厚生や健康の維持に積極的に取り組んでいる。	B	B	
	II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	① 職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	B	B
		② 個別の職員に対して組織としての教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取り組みが行われている。	B	B
		③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	B	B
	II-2-(4) 実習生の受け入れが適切に行われている。	① 実習生の受け入れに対する基本的な姿勢を明確にし体制を整備している。	B	B
② 実習生の育成について積極的な取り組みを行っている。		B	B	
II-3 地域との交流と連携	II-3-(1) 地域との関係が適切に確保されている。	① 利用者と地域とのかかわりを大切にしている。	B	A
		② 事業所が有する機能を地域に還元している。	B	B
		③ ボランティア受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	B	B
	II-3-(2) 関係機関との連携が確保されている。	① 必要な社会資源を明確にしている。	B	A
[自由記述欄]				
II-1-(1)	管理者は地域の要職に就き、広域の地域組織の会議等を通して社会福祉事業の動向について把握している。公設民営化して5年目であり、地域の福祉サービスに対するニーズ等について収集しているデータが少ない。			
II-2-(1)	有資格者の配置を含め、必要な人員体制は確保しているが、園児数に変動があり予測できない為、人材に関する具体的なプランが整備できていない。			
II-2-(2) ①	管理者は、職員の自己評価を基に定期的な職員面接を行っている。時間外労働や有給休暇取得の状況把握は適切に行っているが、職員が相談できるカウンセラーの設置等は行っていない。			
II-2-(2) ②	民間社会福祉施設職員共済会等に参加している。職員の悩み相談窓口を組織内に設置する体制整備はされていない。			
II-2-(3) ①	就業規則に職員の質向上のための研修実施について明示されているが、組織が職員に求める専門技術までは明確にされていない。			
II-2-(3) ②	職員一人ひとりについて教育・研修計画が策定されているが、計画に沿った研修の実施や具体的な取り組みに課題があると自覚されている。			
II-2-(3) ③	研修報告書を作成して職員会議において情報共有を行っている。研修成果に関する評価・分析を次の研修計画に反映する仕組みが整備されていない。			
II-2-(4) ①	実習の受け入れマニュアルを整備して、中学生職場体験や保育士資格取得のための実習生を受け入れているが、実習指導者に対する研修は実施していない。			
II-2-(4) ②	実習マニュアルにおいて実習プログラムを準備している。個別の実習生に対する実習計画作成や、保育士養成校との継続した連携が必要である。			
II-3-(1) ①	複数地域の運動会、作品展に参加し、敬老会、勤労感謝祭で太鼓演奏するなど、地域の行事活動に積極的に参加している。			
II-3-(1) ②	月に1~2回、地域の親子対象に園庭を開放をしている。地域の方々に園行事に参加して頂くなど、地域との交流の機会が多い。今後は子育て相談、子育て情報発信の機能を地域で果たしたいと考えておられる。			
II-3-(1) ③	ボランティアの受け入れについて職員会議で話し合っている。受け入れに関する意義・方針を明確にしたマニュアル等が整備されていない。			
II-3-(2)	地域公民館の体育館を利用した運動会の開催、他園との交流などをはじめ、地域の社会資源と積極的に連携を図り、関係機関のリスト化もなされている。			

Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	① 利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備している。	A	A
		② 利用者からの意見等に対して迅速に対応している。	A	A
	Ⅲ-1-(2) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。	① 苦情解決の仕組みが確立され十分に周知・機能している。	A	A
Ⅲ-2 サービスの質の確保	Ⅲ-2-(1) 質の向上に向けた取り組みが組織的に行われている。	① 定期的に第三者評価を受診し、事業内容の改善に活かしている。	B	B
		② 定期的に自己評価を行い、その結果と課題を職員間で共有し、改善に向けた取り組みを行っている。	B	B
	Ⅲ-2-(2) サービス実施の記録が適切に行われている。	① 入園面接・健康診断など定められた手順に従ってアセスメントを行っている	B	B
		② 利用者に関する記録の管理体制が確立している。	A	B
		③ 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している。	B	B
	Ⅲ-3 サービスの開始・継続	Ⅲ-3-(1) サービス提供の開始が適切に行われている。	① 利用希望者に対してサービス選択に必要な情報を提供している。	B
② 保育の開始にあたり利用者等に説明し同意を得ている。			B	A
Ⅲ-3-(2) サービスの継続性に配慮した対応が行われている。		① 転園・卒園にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	C	B
[自由記述欄]				
Ⅲ-1-(1)	「プライバシー保護に関する規程」が整備されている。職員に対しても誓約書を取り、規程に基づき研修を実施している。			
Ⅲ-1-(2)①	「相談解決実施要領」を整備して、「意見、要望の解決のための規程」について掲示している。			
Ⅲ-1-(2)②	「意見、要望の解決のための規程」を基に、利用者の意見等には迅速に対応し、職員にも周知を図っている。			
Ⅲ-2-(1)①	法人としては以前にも受診しているが、上川口保育園としては公設民営化してから初受診となる。			
Ⅲ-2-(1)②	職員の自己評価を「自己評価票」を基に年に1回実施し、改善に向けた取り組みは行っているが、評価結果の分析・検討を行っていない。			
Ⅲ-2-(2)①	子どもの身体・生活状況等を定められた様式によって把握しているが、定期的な見直しを行っていない。			
Ⅲ-2-(2)②	記録管理については園規程において記載されているが、個人情報保護と情報開示の観点を含む「文書管理規程」が整備されていない。			
Ⅲ-2-(2)③	個々の子どもの状況等に関する情報共有は、クラス毎の会議において行っている。ケース会議は定期的ではなく十分な情報共有を行う仕組みが構築できていない。			
Ⅲ-3-(1)①	パンフレットは絵や図を使用してわかりやすいものになっているが、ホームページは現在作成できていない。			
Ⅲ-3-(1)②	保育開始にあたり、重要事項説明書を作成して保護者にわかりやすいように説明し同意を得ている。			
Ⅲ-3-(2)	卒園前の「保小中地域連帯教育会」にて申し送り事項を伝えている。転園について手順や引継ぎ文書は定めていない。			

IV-1 子どもの発達援助

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-1 子どもの発達援助	IV-1-(1) 健康管理・食事	① 登所時や保育中の子どもの健康管理は、マニュアルなどがあり、子ども一人ひとりの健康状態に応じて実施している	A	A
		② 健康診断の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている	A	A
		③ 歯科健診の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている	A	A
		④ 感染症発生時に対応できるマニュアルがあり、発生状況を保護者、全職員に通知している	A	A
		⑤ 食事を楽しむことができる工夫をしている	A	A
		⑥ 子どもの喫食状況を把握するなどして、献立の作成・調理の工夫に活かしている	A	A
		⑦ 子どもの食生活を充実させるために、家庭と連携している	A	A
		⑧ アレルギー疾患をもつ子どもに対し、専門医からの指示を得て、適切な対応を行なっている	B	A
	IV-1-(2) 保育環境	① 子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している	A	A
		② 生活の場に相応しい環境とする取り組みを行なっている	A	A
	IV-1-(3) 保育内容	① 子ども一人ひとりへの理解を深め、受容しようと努めている	A	A
		② 基本的な生活習慣や生理現象に関しては、一人ひとりの子どもの状況に応じて対応している	A	A
		③ 子どもが自発的に活動できる環境が整備されている	A	A
		④ 身近な自然や社会とかがわかれるような取り組みがなされている	A	A
		⑤ さまざまな表現活動が自由に体験できるように配慮されている	A	A
		⑥ 遊びや生活を通して人間関係が育つよう配慮している	A	A
		⑦ 子どもの人権に十分配慮するとともに、文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てよう配慮している	A	A
		⑧ 性差への先入観による固定的な観念や役割分業意識を植え付けないよう配慮している	A	A
		⑨ 乳児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる	A	A
		⑩ 長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる	A	A
		⑪ 障害児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮が見られる	B	B

【自由記述欄】

IV-1-(1) ①	健康管理についてのマニュアルを策定している。「福知っ子健診」（4歳児）、スクリーニング（5歳児）など、年齢に応じた健康診断を行っている。
IV-1-(1) ②	健康診断の事前アンケートをとり、医師に聞きたいことなどを把握している。
IV-1-(1) ③	年齢に応じた歯磨き指導、フッ素洗口を実施している。
IV-1-(1) ④	感染症に関するマニュアルが整備されている。「感染症予防対策委員会」を設置し、多職種連携して感染症予防の取り組みを行っている。
IV-1-(1) ⑤	園で収穫した野菜を使った昼食やおやつを提供している。子ども達が落ち着いて食事を楽しめるように、異年齢で食べたり、音楽をかけたり、部屋を変えたりして工夫している。
IV-1-(1) ⑥	「食べ物への感謝」を心掛け、調理員は5歳児と一緒に昼食を摂り、子どもの食べている状況を常に気にかけている。旬の食材を積極的に使い、季節の行事食を行っている。毎日の昼食を写真で残し、今後の工夫に立てている。
IV-1-(1) ⑦	保護者向けにレシピを公開したり、おやつを試食を用意したりしている。玄関に栄養に関する掲示をしたり、週一度、昼食等のサンプルを置いている。
IV-1-(1) ⑧	「アレルギー疾患に関するマニュアル」を基に、診断書の除去食材は完全除去して適切な対応を行っている。
IV-1-(2) ①	採光や通風について配慮して建てられているが、環境整備での工夫は常に注意して、子どもが心地よく過ごせる環境整備に努力している。
IV-1-(2) ②	子どもの様子や年齢が違えば、保育士が細やかな配慮を行っている。部屋の間仕切りを利用して部屋を有効利用するなど、活動の場として適切な空間を確保している。

IV-1-(3)①	保育士が連携を取り、子ども一人ひとりに寄り添い保育を行っている。対応については可能な限り制止する言葉を用いないように注意し、適切に記録して職員間で共有化を図っている。
IV-1-(3)②	生活習慣や生理現象に関しては、状況に応じて一人ひとりのリズムに合わせた配慮をして対応している。
IV-1-(3)③	子ども達の興味・意欲に応えられるように「おゆうぎ会」、「お店やさんごっこ」などの場所や機会を与えるようにしている。保育室に自由に使える折り紙や画用紙、文房具などを用意して、自分で取り出して使えるようにしている。
IV-1-(3)④	園庭での野菜を栽培、昆虫等の飼育等、身近に動植物に接する機会をつくっている。地域行事で地域の人々との交流があり、伝統行事や季節の行事を日常の保育に取り入れている。
IV-1-(3)⑤	太鼓を始め、楽器にふれあう機会を多く持つようにしている。絵画、粘土遊びなど自由に表現できる活動を大切にしている。園文庫を整備して図書の貸し出しもやっている。
IV-1-(3)⑥	普段から異年齢の子どもとの関わりを意識して思いやりを育てる保育を行っている。運動会では「おゆうぎ」や「パズル合わせ競争」等、異年齢の取り組みを行っている。
IV-1-(3)⑦	職員は人権研修会に参加するなどして子どもの権利擁護に配慮している。子どもが自分の気持ちが言えるように、見守ったり代弁するように努めている。
IV-1-(3)⑧	子どもの性差や個人差に留意して、性別による固定的な意識を植え付けない配慮をしている。
IV-1-(3)⑨	乳児保育にふさわしい環境の整備や保育の工夫をしている。具体的には「赤ちゃん体操」を取り入れ乳児期の発達を促す取り組み等を行っている。
IV-1-(3)⑩	長時間保育を受ける子どもには軽食を提供するなど、家庭的な工夫やくつろぎを作り出す工夫をしている。
IV-1-(3)⑪	障害児保育に関してバリアフリー等の環境整備は行っている。障害児保育に関する研修受講や園での生活の計画等が整備されていない。

IV-2 子育て支援

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-2 子育て支援	IV-2-(1) 入所児童の保護者の育児支援	① 一人ひとりの保護者と日常的な情報交換に加え、個別面談などを行なっている	A	A
		② 家庭の状況や保護者との情報交換の内容が必要に応じて記録されている	A	A
		③ 子どもの発達や育児などについて、懇談会などの話し合いの場に加えて、保護者と共通理解を得るための機会を設けている	A	A
		④ 虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、得られた情報が速やかに所長まで届く体制になっている	A	A
		⑤ 虐待を受けていると疑われる子どもの保護者への対応について、児童相談所などの関係機関に照会、通告を行う体制が整っている	A	A
		⑥ 子どもの発達記録やケア記録、保育要録など保育に必要な記録が整備され、保育内容（指導計画）や小学校など専門機関との連携に活かされている。	A	A
	IV-2-(2) 一時保育	① 一時保育は、一人ひとりの子どもの心身の状態を考慮し、通常保育との関連を配慮しながら行っている	非該当	非該当

[自由記述欄]

IV-2-(1) ①	連絡帳で日常的に保護者との連絡を行っている。個人懇談、クラス懇談を定期的に行い保護者との情報交換を大切にしている。
IV-2-(1) ②	連絡帳にあまり記入のない保護者には、来園時に園での様子を細かく伝え、家庭での様子を把握するように努めている。
IV-2-(1) ③	保育参観日は祖父母参観を含み年3回実施して、日常の保育や実践について見てもらい共通理解を得る機会を設けている。また、親子遠足や運動会の保護者の出し物など、保護者間の交流の機会も大切にしている。
IV-2-(1) ④	「児童虐待対応マニュアル」を整備して、職員研修を実施し、虐待防止につながる取り組みを行っている。
IV-2-(1) ⑤	「児童虐待対応マニュアル」を基に、児童虐待の照会、通告にあたっての連絡先を明示している。
IV-2-(1) ⑥	子ども一人ひとりの記録「保育実践一覧表」等を作成して、成長の確認ができるようにしている。地域の小学校での交流会「あそび広場」や連絡会に参加して連携している。
IV-2-(2)	一時保育は実施していない。（非該当）

IV-3 安全・事故防止

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-3 安全・事故防止	(1) 安全・事故防止	① 調理場、水周りなどの衛生管理は、マニュアルに基づいて適切に実施されている	B	B
		② 食中毒の発生時に対応できるマニュアルがあり、さらにその対応方法については、全職員にも周知されている	B	B
		③ 事故防止のためのチェックリスト等があり、事故防止に向けた具体的な取り組みを行っている	A	A
		④ 事故や災害の発生時に対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている	A	A
		⑤ 不審者の侵入時などに対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている	A	A

[自由記述欄]

IV-3 ①	調理場等の掃除・消毒を徹底し、定期的に害虫駆除防除作業を行うなど衛生管理に努めているが、衛生管理マニュアルが整備されていない。
IV-3 ②	感染症に関するマニュアルを整備して全職員に周知し、手洗いや消毒を強化している。マニュアルの定期的な見直しが行われていない。
IV-3 ③	ひやりはっと報告書、事故報告書をもとに、収集した情報を職員会議において検討し対応策を考えている。
IV-3 ④	「土砂災害マニュアル」など事故や災害発生時に対応できるマニュアルが整備され、職員に周知されている。
IV-3 ⑤	防犯教室を警察の指導のもと毎年実施している。不審者侵入時の対応マニュアルを整備して、改善策について話し合い、見直しを行っている。